

# 令和元年12月定例会 常任委員会

## 福祉公安委員会

委員長名	伊藤達也
委員会開催日	令和元年12月20日（金）、12月23日（月）
所属委員	[副委員長]高宮光敏 [委員] 渡辺康平 三村博隆 星公正 紺野長人 西山尚利 佐藤憲保 瓜生信一郎



伊藤達也委員長

(1) 知事提出議案：可 決…10件  
：承認…1件

※[知事提出議案はこちら](#)

(2) 議員提出議案：可 決…3件  
：否 決…2件

※[議員提出議案はこちら](#)

(3) 請 願：採 択…1件  
：不 採 択…2件

※[請願はこちら](#)

## (12月20日（金） 保健福祉部)

渡辺康平委員

先日、我々自民党の青年局でいわき市の被災地に行き、保育施設の被災現場を視察してきた。現場の保育施設の管理者からは、土地のかさ上げを行っていきたいとの声があるが、現状の補助メニューの中にかさ上げはない。今後、県として、保育施設のかさ上げについてどのように応えていくかを聞く。

子育て支援課長

災害復旧は原状復旧が原則となっているが、我々県としても、保育施設等からのさまざまな要望を受け、これまでも国に対して補助の対象等について要望してきた。引き続き要望を重ねていきたい。

## (12月23日（月） 警察本部)

渡辺康平委員

まず台風第19号に関して、福島県警察の職員には、昼夜を問わず警察活動を行っていただいたことに感謝する。

今回の台風第19号では、浸水地域での救助活動においてヘリコプターによるホイスト救助が非常に効果的であった。ただ、東京消防庁において非常に痛ましい事故が発生している。

県警においてもこの安全確認及び救助の練度を高める必要があると思うが、考え方を聞く。

#### 災害対策課長

台風第19号に伴い、救助、救出活動を警察、自衛隊、消防などで実施している。

委員指摘のとおり、警察においてもヘリでの救助を実施しているが、今回の痛ましい事故については、基本的事項が守られていなかったと聞いている。

県警においては、機動隊を中心にヘリによる救助活動を実施しており、再度訓練を実施してこのような事故のないよう努めている。

#### 渡辺康平委員

台風第19号の被災地域では、被災者から夜間における窃盗被害を非常に危惧する声が多々上がっていた。県警として、この地域の防犯体制をどのように強化していく考えか。

#### 生活安全部統括参事官兼生活安全企画課長

被災地においては、今回の台風第19号について、22件の犯罪が発生している。侵入盗が8件、非侵入盗が14件であり、片づけ作業中の盗難被害やタイヤの盗難被害等が発生している。

被害防止策については、被災地におけるパトロール、避難所訪問活動による避難者への防犯指導、さらには被害防止についての広報活動を実施している。現在も本部と署が連携して継続中である。

#### 地域部長

補足する。

まず、ホイスト関係であるが、ヘリを操縦するのは航空隊であり、ホイストに従事するのは機動隊のレンジャー隊員である。原則として、毎週水曜日にふくしまスカイパークを借りて訓練している。それによりこのような事故がないよう日々連携を図り、練度を高める取り組みを行っている。今回の台風第19号でも、他県のヘリによるホイストも含め31名を警察のヘリで救助した。

2点目の被災地の防犯対策については、台風通過後、時間を置かない日に他県から、特別自動車警ら部隊や生活安全部隊などの応援部隊が入ってくれた。自動車警ら部隊は被災地をパトロール等で回る警察官であり、生活安全部隊は避難所を訪問し、被災者の話を聞くなどして安心感を保つことができている。

現在は他県からの応援は終了したが、警察署だけでなく県警本部からも職員を出して引き続き体制を強化している状況である。

#### 瓜生信一郎委員

先ほど部長からも説明があったが、なりすまし詐欺が毎日のように報道されている。県内でもかなりの被害が出ていると思うが、これまでの検挙件数や被害額、そしてこれからの予防策を聞く。高齢者が簡単にだまされるのか、それともだますテクニックが進化しているのか、どんどん新しい手口が出てくるとの報道もあるが、その辺の対策について聞く。

#### 生活安全部統括参事官兼生活安全企画課長

なりすまし詐欺被害防止対策については、県警において関係機関・団体と連携した防犯指導、広報活動、金融機関等の事業所と連携した水際対策、さらに積極的な情報発信活動を実施している。特に情報発信活動については、予兆情報を認知した場合にツイッター等で注意喚起の広報、さらには報道機関等に情報発信している。

また、なりすまし詐欺防止ふくしまネットワークを構築し、加盟業者に対する情報提供を行い、高齢者については、なりすまし詐欺で特に被害に遭いやすいことを踏まえ、なりすまし詐欺電話撃退装置の無償貸し出しや留守番電話機能の活用促進等を行っている。特に、高齢世帯、高齢独居世帯の被害が多いため、留守番電話を活用して直接電話を受けない対応をすることで、冷静な判断ができるよう現在対策を進めている。

#### 捜査第二課長

なりすまし詐欺の検挙の状況について答える。

最新の統計値は現在手元にないが、ことし7月末現在で、認知件数が70件、被害額が1億1,778万円、検挙が20件5名

だった。10月末現在においては、私の記憶の中にある数字になってしまうが、認知件数が100件弱、被害額が1億5,000万円程度で、検挙数はかなりふえている状況である。13名ほどを逮捕したと記憶している。

#### 生活安全部長

被害の認知件数、被害額について補足説明する。

11月末現在の被害の認知件数は98件、被害額は1億6,959万円で、前年同期と比べると、件数ではマイナス1件、被害額ではプラス1,229万円となっている。

#### 刑事部参事官兼生活安全部参事官

嫌疑者の検挙の関係であるが、11月末現在で12名を検挙し、63事件を解決している。前年同期と比較して、人員についてはプラス3名、件数については51件の増加である。

#### 瓜生信一郎委員

今聞いただけでもかなりの被害件数があり、検挙されている人数もふえているとのことである。だまされる人、だます者がいるからそのような事件が起こるのだが、家までとりに行くなどいろいろな事案が出ているようである。

出し子などとりに行く者の検挙はあるようだが、その元締めについて、最終的にもとを断たないこうした事件が頻発すると思う。余り言えない部分もあるだろうが、その辺の考え方を聞く。

#### 捜査第二課長

捜査環境としては、今非常に厳しくなっている。

詳細な捜査手法については差し控えるが、現在、キャッシュカードをとりに行く形のものなどについて、犯行グループ組織内での役割分担が非常にはっきりしている。キャッシュカードをとりに行く者、そのキャッシュカードを使ってATMから引き出しをする者、その金を集金する者等役割が分かれており、一番今捜査上の困難事項としては、互いに顔を知らない状況でその間の連絡がどうなっているかがなかなか解明できない。そのためになかなか上部への突き上げが難しくなっている状況である。

また、特殊詐欺については、恐らく本犯は東京にいるので、東京や関東地方の警察との連携が非常に重要ということで現在取り組んでいる。

#### 西山尚利委員

今定例会において、議会内に児童虐待防止に関する条例案検討会が設置された。来年4月の施行を目指して検討会の中で鋭意議論が進んでいるが、議論の中心になるのは、県警と児童相談所の連携がどうなっているのかにどうしても焦点が当たっていく。

施行は来年4月1日を目指していくが、これは待たなしの状態だと考えているので、現在、県警と児相がどういった対策をとりながら児童虐待に関与しているのか、状況を説明願う。

#### 少年課長

児童相談所との連携であるが、昨年1月に、県保健福祉部こども未来局と県警の間で児童虐待における情報共有に関する協定を締結し、児童の安全確保のために必要な情報の提供と共有を図っている。

また、ことし4月から、県内全ての児童相談所に警察官など4名を配置しており、警察と児童相談所との円滑な情報の共有に努めている。

先月11月には、事案対処能力向上を目的として県児童相談所と合同で想定に基づく訓練を行い、立入調査から臨検・捜索要領などを確認し、事案取り扱い時の連携について再確認を行ったところである。なお、想定訓練については継続して行っていく。

今後も児童相談所との連携を図り、児童の安全確保を最優先とした対応に努めていく。

## (12月23日(月) 病院局)

渡辺康平委員

人口ビジョンにおいて、2040年の人口目標が162万人から153万人に下方修正されている。県の人口減少が進んでいるが、地域医療の役割は変わらないと思う。

病院局として、今後の人口減少社会における地域医療のあり方をどのように考えているか。

病院経営課長

県立病院事業としては、奥会津の宮下病院、南会津の南会津病院の医療圏において高齢化が県内一のスピードで進んでいる。特にその2つの病院においては、高齢化の進展に伴い、病院の役割としては、訪問看護、訪問診療といった在宅医療に加え、地域包括ケアシステムの中で、保健福祉を所管する市町村や社会福祉協議会などの関連団体と連携し、適切な場所で医療や福祉を受けられることが大事だと考えているので、その分野を強化していきたい。